

平成27年度事務事業評価シート					取組みコード	53144
区分	イベント		担当課	商工観光課	作成日	平成27年5月15日
事業名	ダム周辺地域振興事業費(半原系の里文化祭負担金)		開始年度	平成10年度	予算科目	6.1.3.4.1

1 事業の概要

総合計画での位置づけ			
部	第5部 多彩な産業の活力あるまちづくり	章	第3章 地域資源を活用した観光の振興
節	第1節 観光・レクリエーションの振興	基本施策	4 観光PRと推進体制の整備
取組みの基本方向 (4)県立あいかわ公園や中津川などの魅力を高めるイベントを開催します。			
根拠法令等	「やまなみ五湖 水源地域交流の里づくり計画(水源地域交流の里づくり推進協議会)」「(事務局 神奈川県)において、都市地域住民へ水源地域の魅力等を発信する「交流の里イベント」に位置付けられている。		
目的 (誰・何を対象に、何のために)	水源地域の活性化策として、県立あいかわ公園において、地域の自然・産業・歴史文化などの発信、都市と地域の交流及び自然環境保全への理解を深めることを目的に、(公財)宮ヶ瀬ダム周辺振興財団主催の「みやがせフェスタ夏の陣」に併せ、「半原系の里文化祭」を実施するもの。		
内容・方法 (何を行っているのか)	和紙細工や木工の体験教室や、水源地域の特産品「やまなみグッズ」の紹介・販売、町観光キャラクター「あいちゃん」による観光PR、宮ヶ瀬ダムの観光放流などを行うもの。		

2 指標(事業の成果・活動内容等を数字で表します)

本事業が属する総合計画の節の成果指標	指標名		平成21年度	平成28年度			
	入込観光客数		1,425,613人／年	1,496,000人／年			
	フィルム・コミッション利用件数		20件／年	24件／年			
(A)総合計画の節の目標を達成するため本事業に求められる成果			観光客の増加				
(A)の成果をあげられているか測るための指標(成果指標)	増減	指標の説明	項目	基準年度 (平成24年度)	平成25年度	平成26年度	平成27年度
入込観光客数	増	入込観光客数 ※平成21年度から毎年1万人増加し、目標達成に至るよう計画値を設定	計画値		1,466,000.0	1,476,000.0	1,486,000.0
			実績値	1,153,293.0	1,278,574.0	1,258,540.0	
			達成度※自動計算		87.2	85.3	0.0
(B)成果指標の目標を達成するため本事業において町が行う活動			半原系の里文化祭の開催				
(B)の活動状況を測るための指標(活動指標)	増減	指標の説明	項目		平成25年度	平成26年度	平成27年度
半原系の里文化祭の来場者数	増	過去の来場者数に対する当該年度の来場者数	計画値		22,000.0	24,000.0	25,000.0
			実績値		24,000.0	25,000.0	
			達成度※自動計算		109.1	104.2	0.0

※ 増減欄は、指標の値について、増加が望ましい場合に「増」、減少が望ましい場合に「減」を記入する。

3 事業費の推移と財源内訳

				(E) 平均人件費(円/年)	8,300,000
年 度		基準年度(決算) (平成24年度)	平成25年度(決算)	平成26年度(決算見込)	平成27年度(予算)
(A) 事業費(円)		340,000	340,000	340,000	340,000
(B) 概算職員数(人)		0.040	0.040	0.040	0.040
(C) = (B) × (E) 人件費(円) ※自動計算		332,000	332,000	332,000	332,000
(D) = (A) + (C) 総事業費(円) ※自動計算		672,000	672,000	672,000	672,000
単位当たりコスト※自動計算		0.6	0.5	0.5	
財源内訳(円)	特定財源	国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	一般財源※自動計算		672,000	672,000	672,000

4 事業の項目別評価(分析)

項 目	判定基準	判定 ※一部自動判定	評価 ※自動判定
妥当性 (公費を投入して実施することが妥当な事業か)	法令等で義務付けられた事業である		B
	民間サービスで同様の事業は実施されていない、市場原理に委ねることができない	○	
	国や県において同類種の事業が実施されていない		
	事業開始時から事業目的や町民のニーズの変化がない	○	
	事業・サービスの提供時間帯及び場所は公平に提供されている	○	
	受益に応じた負担は適正である		
	事業の実施による効果が不特定多数の人に広く及ぶ性質である	○	
	町民の日常生活に必要不可欠な事業である		
上記のいずれにも当てはまらない			
有効性 (基準年と比較して成果が上がっているか)	成果指標について平成26年度の目標を達成している	×	B
	基準年度と比較して成果が向上している	○	
効率性 (なるべく費用をかけずに成果を上げているか)	基準年度と比較して費用の縮減ができている (費用の縮減率が成果の向上率以上か)	費用減、成果アップ	A
有用性 (施策の成果指標の目標達成に貢献しているか)	総合計画の節の目標達成のための本事業の効果	間接的	B
	総合計画の節内での本事業の優先順位	高い	
総合評価 ※自動判定		改善の余地がある	

5 特記事項

本事業の改善のみをもって、成果指標である「観光客数」を飛躍的に向上させることは困難である。

6 自己評価(担当課)

評価結果	● 現状維持	○ 拡 充	○ 改 善	○ 縮 小	○ 再 構 築	○ 廃 止
理由	平成27年度で17回目の開催を迎えた当事業は、この時期の風物詩として町内外から認知が進んでおり、引き続き「みやがせフェスタ夏の陣」と同時開催することにより、町のPR及び地域活性化につながると期待できる。					
今後の方向性	町の特産品「愛川ブランド」などをより強く発信し、更なる集客に努めていく。					

7 1次評価(庁内行政評価委員会)

評価結果	● 現状維持	○ 拡充	○ 改善	○ 縮小	○ 再構築	○ 廃止
今後の方向性に係る意見等	所管課の方向性のとおり					

8 2次評価(外部評価:行政改革推進委員会)

評価結果	● 現状維持	○ 拡充	○ 改善	○ 縮小	○ 再構築	○ 廃止
今後の方向性に係る意見等	愛川町を広く町内外へアピールできる絶好の機会であり、県の水源地域交流の里事業にも位置づけられている。みやがせフェスタ夏の陣との同時開催により、少ない予算の中で効率よく事業が実施されていることから、現状維持とする。					

9 2次評価(実施のない場合は1次評価)を踏まえた対応案(担当課)

現状のまま引き続き事業を実施するほか、町の特産品「愛川ブランド」の出店の可能性について平成27年度中に検討を行い、可能であれば平成28年度から実施する。
--

10 町の最終方針(行政改革推進本部会議)

評価結果	● 現状維持	○ 拡 充	○ 改 善	○ 縮 小	○ 再 構 築	○ 廃 止
理由・改善方針	所管課の方向性のとおり、引き続き現状の事業を実施するとともに、「愛川ブランド」認定品の出店について検討を行い、可能であれば平成28年度から実施する。					